

動詞「ひく」の多義構造

—日本語教育の観点から—

李 澤 熊

要 旨

本稿は、動詞「ひく」が持つ複数の意味を記述し、それらの複数の意味の関連性（多義構造）を明らかにすることを旨としたものである。分析の結果、「ひく」について18の多義的別義を認定することができた。別義間の関連性については、隠喩（メタファー）と換喩（メトニミー）という2つの比喩の観点から考察を行い、18の別義間の関連性を明らかにすることができた。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察した。具体的には、いくつか注目すべき別義の「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について分析した。

キーワード

多義語、多義構造、比喩、コロケーション、誤用例分析

目 次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 「ひく」の多義構造
4. 日本語教育の観点からの考察—コロケーションの提示と誤用例分析—
5. まとめ

1. はじめに

本稿では、まず「ひく」（注1）が持つ複数の意味を記述し、それらの複数の意味の関連性（多義構造）を明らかにする（注2）。動詞「ひく」については様々な観点から分析がなされており、質の高い先行研究が数多くあるが、その記述は必ずしも十分とは言えず、さらに検討が必要である（詳しくは後述）。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、各別義における「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討する。なお、「ひく」の複数の意味の関連性については、隠喩（メタファー）と換喩（メトニミー）という2つの比喩の観点から考察する（注3）。それぞれの定義は初山・深田（2003）に従い、以下のように示す。

メタファー：2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。

「類似性に基づく」というのは、2つの事物・概念に類似性が内在しているというよりも、人間が2つの対象の間に主体的に類似性を見出すことを表していると考えたほうが適切である。（p.76）

メトニミー：2つの事物の外界における隣接性、さらに広く2つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩。（p.83）

2. 先行研究

ここでは、「ひく」の意味を分析した先行研究として、詳細かつ網羅的な分析がなされていると思われる鷺見（1997）を取り上げる。

鷺見（1997）は、鈴木（1994）など従来の先行研究を踏まえ、「ひく」の意味を15の別義に分けて分析しており、さらに複数の意味の関連性については比喩の観点からの的確に説明している。本稿では、この15の別義に関しては基本的に鷺見の研究を踏襲する形を取るが、以下に示すように、さらに検討を要するところもあると考える。

- ①鷺見（1997）は例（1）をあげて、〈人が〉〈板を〉〈切る〉という多義的別義を認めているが、例（2）から分かるように、ひくの「対象物」は「板」以外のものも考えられるため、さらに検討が必要である。

- (1) a のこぎりをひいて板を切る。
 b 板をひく。(鷺見（1997：195）)
 (2) a 丸太をひく。
 b 包丁をひいて鯛を切る。

- ②鷺見（1997）は例（3）をあげて、〈人が〉〈豆を〉〈砕く〉という多義的別義を認めているが、例（4）から分かるように、ひくの「対象物」は「豆」以外のものも考えられるため、さらに検討が必要である。

- (3) a 臼をひいて豆を砕く。
 b 豆をひく。
 c 粉をひく。(鷺見（1997：195）)
 (4) a 石臼を使ってお茶をひく。
 b 機械でひいた肉。

- ③「ひく」は次の例のように、〈人〔乗り物〕が〉〈人や動物を〉〈車輪で踏みつけて通る〉という意味で使われる場合があるが、鷺見（1997）は言及はしているものの別義としては立てていない（注4）。

- (5) aトラックが通行人をひいた。
b乗用車がネコをひいた。

④鷺見(1997)は以下の例(6)(7)における「手をひく」「身をひく」について、「やめる」「関わりを絶つ」という慣用的意味を持つとし、『『伸ばした手』や『乗り出した身』を後退させる』という字義通りの意味からの手段と目的に基づく換喩により成り立っているとしている。しかし、例(8)(9)のように「ひく」が単独で用いられる場合にも同じような意味としてとらえられると考えられるため、本稿では、別義として認めて分析する。

- (6) そんな儲けのない仕事からは、手をひかせてもらうよ。(鷺見(1997: 201))
(7) 5年前に会社から身をひき、今は家庭菜園を楽しむ毎日です。(同上)
(8) 彼は現役をひいて、もう3年になる。
(9) 勤め先の会社をひく。

⑤鷺見(1997)は以下のような例について、〈生き物・組織が〉〈出ている人・もの・体の部分を〉〈後退させる〉という多義的別義との連続性を示していると指摘しているが、別義としては立てていない。本稿ではこれについても別義として認めて分析する。

- (10) お土産を持参したが、受け取らないと言われて、ひくにひけなくて困った。(鷺見(1997: 202))
(11) ギャグがあまりにくだらなかったので、みんながひいてしまった。(同上)

本稿では、以上を踏まえて「ひく」について18の多義的別義を認めて、

比喩の観点から詳しく考察する。

3. 「ひく」の多義構造

本稿では前節で検討した先行研究を踏まえて、「ひく」について18の多義的別義を認め、考察を行う。

3. 1 多義的別義（1）：〈人が〉〈あるものの一部をつかんで〉〈自分のほうに向けて〉〈力を加える〉

- (12) 太郎がイスを手前に引いた。
- (13) 漁師たちが力一杯網を引いている。
- (14) 警官が犯人に向けて、ピストルの引き金を引いた。
- (15) 車を止めたら、必ずサイドブレーキを引いておきましょう。

別義（1）は、人があるものを自分のほうに動かすことを目的として、その一部をつかんで力を加えることを表す。ただし、「雨戸をひく」「左から右へカーテンをひく」のように、必ずしも「自分（主体）のほうに力を加えない」場合もある（鷲見（1997））。この場合は「主体が意図する方向に力を加える」ということになる（注5）。

3. 2 多義的別義（2）：〈人〔動物・乗り物〕が〉〈後ろに位置する他の人〔動物・乗り物〕に対して〉〈自分の進む方向に〉〈力を加えて〉〈移動させる〉

- (16) 生徒たちがリヤカーを引いて、荷物を運んでいる。
- (17) 機関車で貨物列車を引く。
- (18) この近辺では、まだ牛や馬が荷車を引いている光景を見ることができる。
- (19) 小さい子供が、母親に手を引かれて幼稚園に入っていく。

別義(1)は単に対象物をつかんで主体のほうに向けて力を加えることを表しているが、この「ひく」は、ある対象物に力を加えることによって「その対象物を主体が進む方向に移動させる」ことまで表していると考えられる。

さて、別義(2)は別義(1)から時間的隣接に基づく換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。つまり、対象物をつかんで主体のほうに向けて力を加えることと、その対象物を主体が進む方向に移動させるという目的を伴うことが、時間的に隣接して(同時的に)生じているということである。

3. 3 多義的別義(3):〈人が〉〈弦楽器・鍵盤楽器を〉〈鳴らす〉

- (20) 舞台の上でギターを弾きながら歌っているのは、私の甥です。
- (21) オルガンでいろいろな曲を弾いてみた。
- (22) 今バイオリンを習っているんですが、一生懸命練習して人前で弾けるようになりたいです。
- (23) ベートーベンやバッハを弾くのは体力がいると言われている。

以上の例のように「ひく」は、「楽器を鳴らす」という意味で用いられることがある。また、例(21)のように、「ひく」という動詞を拡張して、弓を引くという動作を伴わない鍵盤楽器の演奏の場合にも用いることがある。

さて、この「ひく」は(弦楽器の)弓を「ひく」という動作によって、「音を出す」という目的を表している。つまり、別義(1)と別義(3)は手段と目的の関係にあるととらえられ、換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

なお、漢字表記であるが、別義(3)で用いられる場合は、一般的に「弾」を使う。

3. 4 多義的別義 (4):〈人 [動物・もの・こと] が〉〈(他の) 人の目や心を〉〈向けさせる〉

- (24) 彼女の才能と美貌に惹かれて結婚しました。
- (25) 彼女の可愛らしい服装が、人目を引く。
- (26) この作品で最も心を引かれたのは、主人公が恋人と別れる最終章のところでは。
- (27) 私が入社を決めたのは、この会社の理念に引かれたからです。
- (28) この年になると、年金問題などに興味を引かれるようになる。

この「ひく」は、別義(1)のようにある対象物に「物理的な力を加える」ことを表しているのではなく、「抽象的な力を加える」ということを表す。例えば、例(25)において、「可愛らしい」という属性が魅力、つまり、力となって対象物である人(の視線)に働きかけ、主体である「服装」に向けさせるということである。

さて、別義(4)は別義(1)と類似性が認められることから、隠喩(メタファー)による意味の転用であると考えられる。つまり、〈主体のほうに向けて、対象物に何らかの力を加える〉という共通の意味特徴が認められるということである。

なお、漢字表記は一般的に「引」を使うが、別義(4)で用いられる場合は「惹」を使うこともある。

3. 5 多義的別義 (5):〈人が〉〈あるものを〉〈全体の中から選んで〉〈自分のほうに向けて〉〈取り出す〉

- (29) 抽選会で、友達が当たりくじを引いて喜んでいいる。
- (30) この中から好きなカードを一枚引いてください。
- (31) 八坂神社で彼女とおみくじを引いた。
- (32) 太陽の模様が入ったカードを引いたら勝ちです。

別義（5）は、単に対象物をつかんで主体のほうに向けて力を加えることを表しているわけではなく、ある対象物に力を加えることによって「その対象物を主体のほうに移動させて、選び取る」ことを表していると考えられる。例えば、例（29）は、「抽選会のくじの中から一つを選んで、取り出す（その結果が当たりくじだった）」ということである。

さて、別義（5）は別義（1）から時間的隣接に基づく換喩（メトニミー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。つまり、対象物をつかんで主体のほうに向けて力を加えることと、その対象物を主体のほうに移動させて、選び取るという目的を伴うことが、時間的に隣接して（同時に）生じているということである。

3. 6 多義的別義（6）：〈人が〉〈線（状の形）を〉〈書く〉

- (33) 大事な部分は分かりやすく下線を引いておきましょう。
- (34) 鉛筆で縦と横の線を引いてください。
- (35) アイラインを引く時、注意しなければならないことを教えてください。
- (36) 小さい頃から図面を引いたりすることが大好きで、将来の夢は一級建築士になることです。

別義（6）は単に対象物をつかんで主体のほうに向けて力を加えることを表しているわけではなく、ある対象物に力を加えることによって「線を描く」ということを表している。つまり、別義（1）とは手段と目的の関係にあるととらえられ、換喩（メトニミー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。例えば「鉛筆で線をひく」という例において、鉛筆に力を加えて、主体のほうに動かせば、軌跡が線となって残るということである。つまり、「鉛筆をひく」という手段で「線を描く」という目的を表す。

また、この「ひく」は基本的に「人」に対して使うが、「納豆が糸をひく」「クモが糸をひく」というように無情物、動植物に対して使うこともある。

この場合「何らかの力を加えることによって、線状のものを生み出す」というようにとらえることができる。

さらに、「フライパンに油をひく」「敷居に蠟をひく」のように、「伸ばして広げる」という意味で使われることがあるが、この場合も「線が広がって面になる」ということを考えれば、別義（6）の一種として考えることができる。

3. 7 多義的別義（7）：〈人が〉〈全体から〉〈数量を〉〈減らす〉

(37) 10から3を引くと、7が残る。

(38) 売上から必要経費を引いた金額が所得になります。

(39) 問題のある商品を定価から2割引いて、安く売ることにした。

(40) 人口の自然増減数とは、出生数から死亡数を引いた値のことである。

別義（7）は、「全体の中からあるものを取り出す」ことによって「数量を減らす」ということにつながるので、別義（5）から手段と目的の関係に基づく換喩（メトニミー）によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

一方で、別義（5）はある対象物に物理的な力を加えるのに対して、この「ひく」は抽象的な力を加える（概念上の操作）という点で異なる。ただし、いずれも「全体の中から何らかのものを取り出す」という点では共通している。つまり、別義（7）は、別義（5）から隠喩（メタファー）によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。

3. 8 多義的別義（8）：〈人が〉〈辞書などの書物を使って〉〈求める情報を〉〈探し出す〉

(41) 辞書で「愛」という言葉を引いてみた。

- (42) 最近は、紙の辞書を引いて単語を調べる学生が少なくなりました。
- (43) 国語辞典で「畏敬」という語を引いてみると、「偉大なものとして、おそれ敬うこと」などと書かれている。
- (44) この事典は、建築や土木などの分野の用語を引く時に役に立ちます。

別義(5)は、ある対象物に物理的な力を加えるのに対して、別義(8)は抽象的な力を加える(概念上の操作)という点で異なる。ただし、別義(5)の「あるものを全体の中から選んで、取り出す」ということと、別義(8)の「辞書の中からある言葉(の意味)を取り出す」ということの間には、「全体の中から何らかのものを取り出す」という類似性が認められる。つまり、別義(8)は別義(5)からの隠喩(メタファー)による意味の転用であると考えられる。

また、例えば「若者がよく使う言葉は辞書をひいても出てこないことがしばしばある」という例において、この「ひく」が直接指し示すのは「言葉の意味を知る」「求める情報を得る」という目的を達成するための「辞書などの書物を調べる」という手段である。つまり、別義(8)は別義(5)から、手段と目的の関係に基づく換喩(メトニミー)によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。

3. 9 多義的別義(9):〈人が〉〈もの・こと・言葉を〉〈例としてあげる〉

- (45) 先生は具体例を引いて、分かりやすく説明して下さった。
- (46) 万葉集を例に引いて説明してください。
- (47) 彼は著書の中で、世界の環境問題についていろいろな事例を引いて論じている。
- (48) 裁判では、膨大な資料から必要な証拠を的確に引いて検証していく必要がある。

別義(5)はある対象物に物理的な力を加えるのに対して、この「ひく」は抽象的な力を加える(概念上の操作)という点で異なる。ただし、別義(5)の「あるものを全体の中から選んで、取り出す」ということと、別義(9)の「作品などの中からある言葉などを(概念上の操作によって)取り出す」ということの間には、「全体の中から何らかのものを取り出す」という類似性が認められる。つまり、別義(9)は別義(5)からの隠喩(メタファー)による意味の転用であると考えられる。

また、「言葉などを例としてあげる(引用する)」ためには、「(自分のほうに向けて)取り出す」という手段が必要であると考えられる。つまり、別義(9)は別義(5)から、手段と目的の関係に基づく換喩(メトニミー)によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。

3. 10 多義的別義(10):〈人[団体・組織]が〈水や電気などの線状の施設・設備を〉〈通じさせる〉

- (49) この村にも、やっと水道が引かれるようになった。
- (50) 携帯電話の普及により、家に固定電話を引くことが少なくなってきた。
- (51) 新しい家を建てる予定ですが、都市ガスを引くか、オール電化にするかで迷っています。
- (52) 昨年この町で大きな金脈が見つかったため、急きょ貨物を輸送できる線路を引くことになった。

別義(5)は「あるものを全体の中から取り出す」ということを表すが、この「ひく」は「施設・設備を設置する」という点で異なる。ただし、別義(5)の「あるものを全体の中から選んで、取り出す」ということと、別義(10)の「元となるところから、線状の経路を作ることによってあるものを通じさせる」ということの間には、「あるところから何らかのものを取り出す」という類似性が認められる。つまり、別義(10)は別義(5)

からの隠喩（メタファー）による意味の転用であると考えられる。

また、「施設・設備を通じさせる（取り込む）」ためには、前提として「（主体が注目するほうに向けて）取り出す」という手段が必要であると考えられる。つまり、別義（10）は別義（5）から、手段と目的の関係に基づく換喩（メトニミー）によっても意味拡張が成り立っていると考えられる。

3. 11 多義的別義（11）：〈人〔動物・団体・組織・もの〕が〉〈血統・系統を〉〈受け継ぐ〉

- (53) うちの犬は狩猟犬の血を引いていて、動きが俊敏だ。
- (54) この地区で発掘された土器は、弥生時代の系譜を引くものが多い。
- (55) この劇団は、イギリス演劇の伝統を引いている。
- (56) 彼は名門音楽一家の血筋を引いた、いわばサラブレッドのような人物です。

別義（10）は「施設・設備を設置する」ということを表すのに対して、この「ひく」は「血統・系統を受け継ぐ」ということを表す。ただし、「元となるところから、何らかのものを受け継ぐ」という点では共通している。つまり、「川から水を引く」「親の血を引く」という例からも分かるように、どちらも「源を同じくするものを受け継ぐ」という類似性が認められる。よって、別義（11）は別義（10）からの隠喩（メタファー）による意味の転用であると考えられる。

3. 12 多義的別義（12）：〈人〔乗り物〕が〉〈人や動物を〉〈車輪で踏みつけて通る〉

- (57) バスが歩行者を引いた。
- (58) 昨日実家で飼っていた犬がトラックに引かれて死んでしまいました。

- (59) 赤信号を無視した乗用車が通学途中の児童5人を引いて、そのまま逃げた。
- (60) 昨夜、急行列車がホームから線路に落ちた女子大生を引く事故が発生した。

別義(2)は「主体の後ろに位置する対象物を主体の進む方向に移動させる」ということを表すのに対して、この「ひく」は「対象物を車輪で踏みつけて通る」ということを表す。ただし、「ある対象物に何らかの力を加えることによって、(結果的に)主体の進む方向に移動させる」という点では共通している。つまり、別義(12)は別義(2)からの隠喩(メタファー)による意味の転用であると考えられる。

なお、漢字表記は一般的に「引」を使うが、別義(12)で用いられる場合は「轆」を使うこともある。

3. 13 多義的別義(13)：〈人が〉〈粒状の穀類や肉を〉〈粉状になるまで細かくする〉

- (61) 家内がキッチンでコーヒー豆を挽いている。
- (62) 石臼を使ってお茶を挽いてみた。
- (63) まず、そばの実を挽いて粉にしてください。
- (64) 今日はステーキ肉を挽いて、ハンバーグを作ってみよう。
- (65) この豆腐工場では、大豆を挽くところから豆腐作りの体験ができる。

以上の例から分かるように、別義(13)におけるひく「対象」は豆などの「粒状の穀類や肉」である。

さて、別義(1)は、単に対象物をつかんで主体のほうに向けて力を加えることを表しているが、この「ひく」は、ある対象物に力を加えること(臼を回すなど)によって「その対象物を碎き、粉状にする」ことまで表して

いる。つまり、別義(13)と別義(1)は手段と目的の関係にあり、換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

なお、漢字表記であるが、別義(13)で用いられる場合は、一般的に「挽」を使う。

3. 14 多義的別義(14)：〈人が〉〈のこぎりや包丁などの刃物で〉〈木材・魚肉を〉〈切ったり削ったりする〉

(66) 父がのこぎりで板を引いている。

(67) 包丁を引いて、鯛を切る。

(68) 友達と協力して大きなのこぎりを引いて、板を切った。

(69) 木版画の細かい模様は、彫刻刀を引いて彫る。

(70) 木製の椅子や食卓テーブル、食器棚などは丹精を込めて手カンナを引いて作ったものである。

(71) この包丁は野菜や果物だけではなく、肉や魚を引いて切るのにも使える。

以上の例から分かるように、別義(14)におけるひく「対象」は「木材や魚、肉」などである。また、「包丁でキュウリをひく」とは言わないように、単にものを切断する場合は使いにくい。つまり、のこぎりのように、刃の部分を前後に動かしながら(引いたり押ししたりしながら)切断する場合に用いられるということである。

さて、別義(1)は単に対象物をつかんで主体のほうに向けて力を加えることを表しているが、この「ひく」は、かんなやのこぎりに力を加えること(ひくという動作)によって、「切断する」という目的を表している。つまり、別義(14)と別義(1)は手段と目的の関係にあり、換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

3. 15 多義的別義(15):〈人[団体・組織]が〉〈出ている人[体の部分・もの]を〉〈後退させる〉

- (72) 米国はアジアから兵を引いた。
- (73) 前から来た自転車を避けようと、体を引いた。
- (74) 写真を撮るとき、「軽くあごを引いてください」と言われた。
- (75) 相手がサーブを打つときは、ラケットを後ろに引いて構える。
- (76) 腰を引いて重心を後ろにして、ひざを伸ばしながら立ち上がりましょう。

別義(1)は単に対象物をつかんで主体のほうに向けて力を加えることを表しているが、この「ひく」は、出ているものを主体のほうへ動かすことによって、「後退させる」という目的を表している。つまり、別義(15)と別義(1)は手段と目的の関係にあり、換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

3. 16 多義的別義(16):〈人が〉〈あるものに対して〉〈何らかの態度を〉〈後退させる〉

- (77) 一歩引いて考える。
- (78) 言い出したら、後には引けない。
- (79) 彼の寒いギャグに、みんな引いてしまった。

別義(15)は、出ている人・体の部分・ものという「具体物の移動」を表しているが、この「ひく」は「抽象的なものの移動」を表していると考えられる。例えば、以上の例はそれぞれ「物事を考える時の積極的な態度を後退させる」「(相手への)積極的な態度を後退させる」「ギャグを楽しもうという積極的な気持ちを後退させる」というようにとらえることができる。

さて、別義(16)は別義(15)と類似性が認められることから、隠喩(メタファー)による意味の転用であると考えられる。つまり、「あるものに対して、何らかの力を加えて後退させる」という共通の意味特徴が認められるということである。

3. 17 多義的別義(17):〈人[団体・組織]が〉〈関わりのあった人[団体・組織]・事柄との関係を絶ち〉〈(そこから)しりぞく〉

- (80) 昨年、事業から完全に手を引きました。
- (81) 彼は現役を引いて、もう3年になる。
- (82) 音楽業界からは身を引くことにしました。
- (83) あの女優は今度の公演を最後に、舞台を引くことになった。
- (84) あの政治家は今回の不祥事により、政界から引かざるを得なくなった。

別義(15)は「出ているものを後退させる」ということを表しているが、この「ひく」は、後退させることによって、「やめる」「関係を絶つ」という目的を表している。つまり、別義(17)と別義(15)は手段と目的の関係にあり、換喩(メトニミー)によって意味拡張が成り立っていると考えられる。

3. 18 多義的別義(18):〈出ているものが〉〈元の状態にもどる〉

- (85) 今日は、夜7時頃から潮が引き始める。
- (86) 熱は引いたんですが、咳がなかなか止まりません。
- (87) 目の手術をしても1週間も経つのに、一向に腫れが引かない。
- (88) 津波の水が引いた跡は、まるで戦後の焼け野原のようだった。

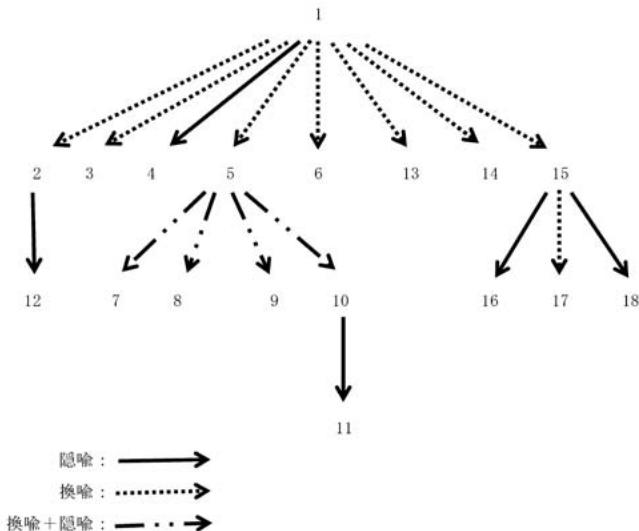
別義(15)は「対象物に物理的な力を加えることによって、後退させる」

のに対して、この「ひく」は「何らかの作用によって、もとの状態に戻る」という点で異なる。ただし、いずれも「何らかの力が加わり、出ていたものがなくなる」という点では共通している。つまり、別義(18)は別義(15)からの隠喩(メタファー)による意味の転用であると考えられる。

なお、鷺見(1997)も指摘しているように、この「ひく」は本来、他動詞であるものが自動詞として使われているものであり、いわゆる「再帰中間態(国広(1996))」と呼ばれる用法であると考えられる。つまり、「出ているものがひく」とは「自らをひく」という意味構造で、表現としては「自らを」が省略されるというものである。こう考えると、「自らを元の状態にもどるようにひく」というようにとらえられ、他動詞として使われる他の別義との関係も明確になる。

以上、本稿では「ひく」について、18の多義的別義を認め、分析を行った。また、別義間の関連性については比喩の観点から説明した。なお、「ひく」は以下のような多義構造を成している。

「ひく」の多義構造



4. 日本語教育の観点からの考察—コロケーションの提示と誤用例分析—

以下では、以上の「ひく」の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察する。具体的には、いくつか注目すべき別義の「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、それぞれの別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討する。

4. 1 多義的別義 (1)

「コロケーション」

〈もの〉を引く：網、紐、ドア、サイドブレーキ、引き金、弓

〈方向〉に [へ] 引く：手前、右、逆、真下、後ろ、平行

〈手段・方法〉で引く：自分、手、自力、みんな、両手

〈人〉と (一緒に) 引く：友達、同僚、仲間、息子、先輩

〈様態〉引く：どンドン、しっかり、ゆっくり、思い切り、まっすぐ、ぐつと

「誤用例」

(89) a ×木を引く。

b ○木にロープをかけて引っ張る。

(90) a ×建物を引く。

b ○建物を、クレーンを使って引っ張る。

→ 土に埋まっているなど、固定されていてそもそも動かすことを想定していないものについては使われにくい。

4. 2 多義的別義 (2)

「コロケーション」

〈人 [動物・乗り物]〉を引く：犬、子供 (の手)、馬、荷車、リヤカー

〈方向〉に [へ] 引く：後ろ、前、前方、左、右側

〈手段・方法〉で引く：一人、手、自力、全員、レッカー車

〈人〉と（一緒に）引く：子供、後輩、上司、友達、同僚

〈様態〉引く：無理矢理、強引に、黙々と、注意深く

〔誤用例〕

(91) a ×新幹線〔飛行機〕を引く。

b ○新幹線〔飛行機〕を運転する。

→ 基本的に、乗り物の一部をつかんで移動させる場合に用いられる。

4. 3 多義的別義（3）

〔コロケーション〕

〈楽器〉を弾く：ピアノ、ギター、バイオリン、チェロ、三味線

〈楽曲・作曲者〉を弾く：前奏曲、ワルツ、ショパン、モーツァルト

〈人〉と（一緒に）弾く：友人、同僚、仲間、妹、恩師、娘

〈場所〉で弾く：舞台、コンサート、ライブ、音楽室、レストラン

〈手段・方法〉で弾く：ピアノ、琴、一人、みんな、両手、指先

〈様態〉（と）弾く：淡々と、ゆっくり、しっかり、ちゃんと、がんがん

〔誤用例〕

(92) a ×フルート〔笛〕を引く。

b ○フルート〔笛〕を吹く。

→ 弾ける楽器は、「弦楽器・鍵盤楽器」に限られる。

4. 4 多義的別義（4）

〔コロケーション〕

〈目・心〉を引く：関心、注意、同情、気、心、視線

〈人〔動物・もの・こと〕〉に引かれる：名前、魅力、彼女、野鳥、骨董品

〈手段・方法〉で引く：視線、色気、派手な衣装、甘い言葉、笑顔

〈様態〉引く：非常に、強く、一目で、ひときわ、次第に

〔誤用例〕

(93) a ×不安〔心配〕を引く。

b ○不安 [心配] をあおる。

→ 好ましくない感情には使われにくい。

4. 5 多義的別義 (6)

「コロケーション」

〈線 (状の形)〉を引く：線、下線、境界線、曲線、図面、眉

〈場所〉に引く：地面、教科書、紙、地図、真ん中

〈道具〉で引く：鉛筆、定規、赤いペン、マーカー、ボールペン

〈人〉と (一緒に) 引く：同僚、仲間、友達、後輩、上司

〈様態〉引く：慎重に、いっぱい、しっかり、ちゃんと、きちんと

「誤用例」

(94) a ? 円を引く。

b ○円を描く [書く]。

(95) a ○矢印を引く。

b ○矢印を描く [書く]。

→ 線状の形でないものには使われにくい。

4. 6 多義的別義 (7)

「コロケーション」

〈(全体の) 数量〉から引く：給料、収入、定価、売上高、総所得

〈(一部の) 数量〉を引く：生活費、手数料、必要経費、費用、2割

〈時期〉引く：毎月、昨年、毎年、来月から、来年から

〈様態〉引く：かなり、たくさん、少し、さらに、しっかり

「誤用例」

(96) a ? 公園の木の数を2割引く。

b ○公園の木の数を2割減らす。

→ 単なる数量の増減を表す場合には使いにくい。

4. 7 多義的別義 (8)

「コロケーション」

〈書物〉を引く：辞書、辞典、漢和辞典、電話帳、百科事典

〈言葉〉を引く：単語、言葉、語、用語、項目

〈手段・道具・方法〉で引く：自分、自ら、自力、辞書、辞典

〈人〉と（一緒に）引く：友達、クラスメート、妹、先生、仲間

〈様態〉引く：簡単に、もう一度、何度も、ちゃんと、すぐ、一応

「誤用例」

(97) a ? インターネットで分からない単語を引く。

b ○ インターネットで分からない単語を調べる。

(98) ○ 辞書で分からない単語を引く [調べる]。

→ 道具が「書物」でない場合は、使われにくい。

4. 8 多義的別義 (9)

「コロケーション」

〈もの・こと・言葉〉を（例に）引く：過去の例、万葉集、一節、証拠、
歌詞

〈もの・こと・言葉〉から（例を）引く：源氏物語、徒然草、作品、詩、
小説

〈様態〉引く：何度も、もう一度、的確に、きちんと、そのまま

「誤用例」

(99) a ? 昨日友達が言った言葉を引いて説明する。

b ○ アリストテレスの言葉を引いて説明する。

→ 「価値・意義のあること」としてとらえられる場合に使うことが多い。従って、単なる日常的な事柄には使いにくい。

4. 9 多義的別義 (10)

「コロケーション」

〈施設・設備〉を引く：ガス、水道、水、電気、電話、バス路線

〈場所〉に引く：地元、家、部屋、村、町、会社

〈組織・団体〉と（一緒に）引く：隣国、協力会社、東京都、町、村

〈時期〉引く：10年前に、昨年、来月、再来年、5年後に

〈状態〉引く：急いで、急ぎよ、直ちに、ちゃんと、しっかり

「誤用例」

(100) a ×コンビニ [公民館] を引く。

b ○コンビニ [公民館] を設置する。

(101) a ○電話 [水道・ガス] を引く。

b ○電話 [水道・ガス] を設置する。

→ 線状の経路を作ることによって設置するものに限られる。

4. 10 多義的別義 (12)

「コロケーション」

〈乗り物〉が引く：車、自転車、トラック、貨物列車、乗用車

〈人・動物〉を引く：子供、通行人、歩行者、愛犬、鹿

〈手段・道具・方法〉で引く：車、自転車、バイク、原付、乗用車

〈場所〉で引く：都内、市内、国道、交差点、山道

〈時期〉引く：3年前、先週、一昨日、昨夜、つい先日

〈状態〉引く：無惨にも、次々（と）、わざと、止まれきれず（に）

「誤用例」

(102) a ? サファリパークで、自転車が大人の象を引いてしまった。

b ○ サファリパークで、自転車が大人の象とぶつかってしまった。

(103) ○ 自転車が猫を引いてしまった。

→ この「ひく」は、「対象物を車輪で踏みつける」ような状況でなければ使えない。

5. まとめ

以上、本稿では動詞「ひく」が持つ複数の意味（別義）を記述し、それ

らの複数の意味の関連性(多義構造)について考察した。その結果、「ひく」について18つの多義的別義を認定することができた。別義間の関連性については、比喩の観点から考察し、18の別義間の関連性を明らかにすることができた。

次に、以上の分析に基づき、それぞれの別義の効果的な学習指導方法について考察した。具体的には、各別義の「コロケーション」を提示することによって学習を促すとともに、各別義において想定され得る「誤用例」も提示し、その理由・原因について検討した。

今後の課題として、「ひく」と関連性の深い「おす」などについても考察したいと考えている。

付記

本稿は国立国語研究所の共同研究プロジェクト『述語構造の意味範疇の普遍性と多様性』において、筆者が担当した『ひく(国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』(<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp/>))]を修正・加筆したものである。

注

- 1 「ひく」には、「引く」「退く」「弾く」「曳く」「牽く」「碾く」「惹く」「挽く」「轆く」という9種類の漢字表記がある。「惹」「挽」「轆」などの一部を除けば、「ひく」に対するこれらの漢字表記は、「ひく」の意味の違い(多義的別義)に厳密に対応しているとは言えない。これについて、初山(1994)では、同一の音形に複数の漢字表記が対応する場合について「1つの音に複数の漢字表記があり、漢字表記の違いが意味の違いに関与しない現象」を認めいている。本稿においても、漢字表記の相違にのみ依拠する区分は行わず、あくまでも意味の相違にのみ注目するという立場で、以下の分析を行う。
- 2 国広(1982:97)は、多義語について『多義語(polysemic word)』とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う」と定義している。本稿においてもこの定義に従う。
- 3 初山(2001:33)は「多義語の複数の意味には相互に何らかの関連が認められ

るのであるから、個々の多義語の分析にあたり、その関連の実態を明らかにすることが課題となる」とし、「メタファー、シネクドキー、メトニミーという3種の比喩が、複数の意味の関連づけに重要な役割を果たすと考えている」と述べている。

- 4 本稿では、「ひく」の他の意味と何らかの関連を持っていると考え、別義として認める立場を取る。一方、同音異義語とする立場も考えられるが、今後の課題としたい。
- 5 「風邪に感染する」という意味で「風邪をひく」という表現がある。これは風邪の菌を吸い込むように、体の中に持ってくることから、「ひく」という動詞が使われると考えられるが、詳しい考察は今後の課題としたい。

参考文献

- 国広哲弥 (1982) 『意味論の方法』, 大修館書店.
- 国広哲弥 (1996) 「日本語の再帰中間態」『言語学林1995-1996』, pp.417-423, 三省堂.
- 鈴木敏昭 (1994) 「多義の構造 - サス、オチル、ヒクの場合」『富山大学人文学部紀要』第20号, pp.23-43, 富山大学人文学部.
- 鷺見幸美 (1997) 「動詞『ひく』の分析」『ことばの科学』第10号, 名古屋大学言語文化部.
- 松村 明 (編) (2006) 『大辞林』第3版, 三省堂.
- 初山洋介 (1994) 「形容詞『カタイ』の多義構造」『名古屋大学日本語・日本文化論集』2, pp.65-90, 名古屋大学留学生センター.
- 初山洋介 (2001) 「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喩」『認知言語学論考』1, pp.29-58, ひつじ書房.
- 初山洋介・深田智 (2003) 「第3章 意味の拡張」松本曜編『認知意味論』(シリーズ認知言語学入門第3巻), pp.73-134, 大修館書店.
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』, 角川書店.
- 山田忠雄・柴田武他 (編) (2012) 『新明解国語辞典』第6版, 三省堂.

例文出典

※本稿における例文は、以下のコーパスを参考にして作った作例である。

- (1) NINJAL-LWP for BCCWJ (<http://nlb.ninjal.ac.jp/search/>)
- (2) NINJAL-LWP for TWC (<http://corpus.tsukuba.ac.jp/>)

- (3) KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>)

(い てぐん・准教授)

